

平成26年5月20日

## 会 議 概 要

審議会等の名称		市川市市政戦略会議	
開催日時		平成26年 5月14日（水） 16時00分 ～ 18時00分	
開催場所		市川市役所本庁舎3階 第4委員会室	
出席者	委員	会長：栗林 隆・副会長：田口 安克・青山 真士・大矢野 潤・木村 直人・幸前 文子・杉浦 功一・立川 和子・田平 和精・新田 英理子・ハリス 貴子・平田 直・古瀬 敏幸・吉原 稔貴・若菜 泰裕	
	所管課	荒井行財政改革推進課長、 他 行財政改革推進課職員 4名	
	関係課		
議題及び会議の概要		公開・非公開の別	非公開の場合の理由
第1号 市川市における今後の行政サービスについて		公開・非公開	・会議公開指針第6条第 号該当 ・公文書公開条例第8条第 項第 号該当
		公開・非公開	・会議公開指針第6条第 号該当 ・公文書公開条例第8条第 項第 号該当
		公開・非公開	・会議公開指針第6条第 号該当 ・公文書公開条例第8条第 項第 号該当
		公開・非公開	・会議公開指針第6条第 号該当 ・公文書公開条例第8条第 項第 号該当
		公開・非公開	・会議公開指針第6条第 号該当 ・公文書公開条例第8条第 項第 号該当
		公開・非公開	・会議公開指針第6条第 号該当 ・公文書公開条例第8条第 項第 号該当
傍聴者の人数	1 人		
閲覧・交付資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【資料1】 審議事項1 魅力ある市川市にするための提言 意見要約</li> <li>・【資料2】 審議事項1 魅力ある市川市にするための提言 資料編</li> </ul>		
特記事項			
所管課	企画部 行財政改革推進課 （内線：2327）		

## 平成 26 年度 第 2 回市川市市政戦略会議

1. 開催日時：平成 26 年 5 月 14 日（水）午後 4 時 00 分から午後 6 時 00 分

2. 場 所：市川市役所本庁 3 階 第 4 委員会室

3. 出席者：(敬称略、50 音順)

会 長 栗林 隆

副 会 長 田口 安克

委 員 青山 真士・大矢野 潤・木村 直人・幸前 文子・杉浦 功一・  
立川 和子・田平 和精・新田 英理子・ハリス 貴子・平田 直・  
古瀬 敏幸・吉原 稔貴・若菜 泰裕

荒井 俊行 (企画部行財政改革推進課長)

中村 和志 (企画部行財政改革推進課主幹)

松本 彦 (企画部行財政改革推進課主任)

村上 万里子 (企画部行財政改革推進課主任)

大平 哲也 (企画部行財政改革推進課主任)

4. 議題： 第 1 号 市川市における今後の行政サービスについて

【午後 4 時 00 分 開会】

議題 第 1 号 市川市における今後の行政サービスについて

---

※審議に先立ち、本日の会議を公開で行うことが了承された。

○栗林会長

前回、魅力ある市川市にするための提言に関して、非常に多くの方のご意見をいただいているため、ある程度、資料1の目次のように、1から子育て、健康、地域、ICT、まちづくり、若年層、行財政基盤と、おおよそ各委員から寄せられた内容を交通整理した。それが、正副会長と事務局でとりあえずここに入れようということで作った資料である。事務局から見方を説明してほしい。

○大平行財政改革推進課主任

(資料1、資料2の見方について説明。)

○栗林会長

さっそく審議に入るが、お一人お一人のご意見を表明いただくと同時に、最後に魅力あるまちづくりという議論に集約する際の目玉を何にするか議論したい。例えば、今はカテゴリーとして、健康、子育て、ICT、7つ8つ挙がっているが、建議に並べると、もっともらしく誰でも言っている当たり前のことが並ぶことになってしまうので、当審議会としては、市川市でそんなことをするのかというようなことをです、打ち上げたりというようなことも視野に入れて、ご発言ご意見をいただきたい。

では早速、青山委員からお願いしたい。

○青山委員

(資料1 6ページ5⑤について説明。)

○栗林会長

いわゆる行徳神輿を私は知らなかったが、現在こういった取組みはなされていないということか。行徳まつりというのは外からの観光客は来るのか。

○青山委員

今、神輿の担ぎ手が行徳も少なくなった。伝統的な神輿が各まちまちにある。今では町名になっているが、昔は鎮守様毎にまちが構成されていた。伝統的な神輿が多々あり、御霊入れをしないと担がしてもらえないものであるが、実行委員会の説得で展示による伝統神輿の揃い踏みには理解いただいている。イベント用の神輿は中台さんから借りている。実は担ぎ手がなかなか集まらないので、東京の浅草や深川や佃などの行徳神輿を輩出している下町の若い衆に、呼びかけてもんでもらっている。10月第4日曜日と決めているが、1年を通して最後の神輿とあって、結構都内から人が来る。

○栗林会長

それでは大矢野委員にお願いしたい。

○大矢野委員

(資料1 3ページ4①について説明。)

○栗林会長

防災も喫緊の課題なので、市川に来たら安全であるとアピールしたい。大矢野委員、なるべく低コストでということだが、コスト面のことを少し教えてほしい。

○大矢野委員

千葉商大と市川市にはJCNのネットワークが入っているので、これがいくらかによる。和洋大学と千葉商大は道路一本挟んでいるので、無線のネットワークでほぼ無料でつながるので、やりとりはできる。計画停電の際、こちらは電気が切れていたが、WiMAXみたいなネットワークは生きていて、電気は切れているがバッテリーと無線で外とやりとりできる。これは一つの物理線にかぎるのではなくて、出来るだけ低い安い物理線を引いておいて、必要があれば無線で切り替えると、こういうことをやると普段使っているネットワークでも連絡のやりとりは出来るのではないかと思う。

○栗林会長

意外とコストが掛からないということである。それでは木村委員にお願いしたい。

○木村委員

(資料1 2ページ1⑥、3ページ3②③、5ページ5《都市基盤関連》③④⑤⑥、5《施策・事業関連》③④について説明。)

○栗林会長

それでは幸前委員にお願いしたい。

○幸前委員

(資料1 1ページ1③について説明。)

○栗林会長

それでは杉浦委員どうぞ。

○杉浦委員

(資料1 7ページ7①について説明。)

○栗林会長

それでは引き続き立川委員にお願いしたい。

○立川委員

(資料1 2ページ1⑤、3ページ2①、5ページ5《施策・事業関連》②について説明。)

○栗林会長

新田委員にお願いしたい。

○新田委員

(資料1《追加分》について説明。)

○栗林会長

ハリス委員にお願いしたい。

○ハリス委員  
(資料1 1ページ1①、3ページ3①、5ページ5《施策・事業関連》①について説明。)

○栗林会長  
はい、平田委員にお願いしたい。

○平田委員  
(資料1 2ページ1④、4ページ5《都市基盤整備関連》①②について説明。)

○栗原会長  
古瀬委員にお願いしたい。

○古瀬委員  
(資料1 1ページ1②、3ページ2②について説明。)

○栗林会長  
次は吉原委員にお願いしたい。

○吉原委員  
市川には現在11,500人の外国人が住んでいるが、仮に大災害が来たときに瞬時の判断出来なかったとき、路頭に迷ったとき、その避難場所は分からないときに、大混乱の種になる。国際交流協会は市の危機管理課と緊急災害の発生時のその連絡について、情報発信についての協定は結んでおり、出来るだけ情報発信しようと努力しているし、資料作りもしているが、緊急時に普段やってない事は機能しないし、起こってから発信しようとしてもその情報が行き着くと思えない。私としては外国人の人たちが安心して住めるということ、イコール、地域の市民達も安心して住めるという、そういうようなネットワーク作りをしていかななくてはいけない。その中にはこの大矢野委員が仰っていたような、I C A Nのような地域のI C Tを活用した地域のネットワークというのを作って、それを日常的に機能させていかないと駄目だと思った。

それからまちづくりについてだが、前回にお話させていただいたように、折角目に見えて街中に花壇が増えてきた。そして、家の中に、家の周りに花が増えてきた。私達がヨーロッパへ行って一番きれいだと思うのは、街中に花が溢れているということだ。そして、その花が自分の家の中で楽しむために飾ってあるんじゃないで、街に行く市民の皆さんや観光客のために花を飾るということを、市民が共有すしてまちがきれいに出来ていると考えると、やはりもう一歩進んでまちづくりの中に、ガーデニングシティいちかわを取り入れたい。それには、前回お話したように市民からのお金を集めて、それをうまく生かすことによって、さらにガーデニング化を進めていくことではないか。

○栗林会長  
若菜委員、何かご意見はあるか。

○若菜委員  
今私の所属している連合は、働くことを軸とする安心社会ということ掲げている。生れてから亡くなるまで、医療、子育て、介護、老後、それから教育、成長する過程があるが、それぞれを働きながら、セーフティネットを張っていくということを思考しながら取り組んでいる。今働いてる中で問題なのは子育ての問題と介護が非常に深刻になっている。市川市が若干在宅介護の方に進んでいるのがわかるのだが、働く中では在宅介護は難

しい部分がある。国の政策、法律なんかでも93日の介護休暇であるが、これの考え方は3ヶ月あれば施設に入所出来るような猶予があり、探すことが出来るという考えの下にそういう制度になっているが、こういう制度と行政とのギャップ、或いは働いている人の実態とのギャップをどう埋めていくかということが大事である。また、子育てについても、土曜休日というのは保育の問題あるいは学童の問題など、まだまだあると思う。実際に世の中が24時間365日化していて、それがいい悪い、いろんな評価はあると思うが、そこに実際に働く人たちはその中で生きてるわけで、そういうところにどういう風に対応していくのか、そういったところに目を向けながら、我々としても協働の中でやっていき、それにはお世話になるところはお願いしたいという風に考えている。

○栗林会長

それでは田平委員。

○田平委員

(資料1 9、10、11ページ、資料2 5～8ページについて説明。)

○栗林会長

資料1の12ページに建議のイメージ図があって、今日は魅力あるまちづくりに関する主としたご議論を頂いたが、来月は行財政改革についてご議論頂く。その大きな二本柱というところまでは、前回決まっている。

目次にコンテンツを入れたが、審議会が建議するにあたって、主とするテーマを考えて出していきたい。そして、今皆さんのご議論を聞いていて、幾つか候補が出ているので、そういった議論をしていきたい。たとえばICT・IT案に関しては、大矢野委員と吉原委員が、それはもう是非やるべきだというようなことを言っていて、意外とコストがかからない。そうしたらやはりこのICTの活用の中で、このICANといったものを前面に打ち出していくということも当然考えられるし、あと協働を中心としたような取り組みでやっぱりこうガイドラインもしくは条例を作ってほしいというようなご意見も2、3人からあった。

それから、都市基盤整備について平田委員がおっしゃたようなところで、例えば外環開通にリンクして、市川市が一体何をするとより良くなるのかというようなことを、大きく言えないのかということである。それと非常に大きな問題として、待機児童、保育所の問題、子育ての問題ということがあつたし、あと田平委員のご提案は、プラス側のまちづくりと来月の行財政改革、両方にまたがっていると思う。

私自身も会長として、3つ、4つ候補をあげたが、意見を大きくとりあげてほしいというテーマを出していただきたい。はい、じゃあ、幸前委員。

○幸前委員

是非子育て支援策のところで、待機児童数が多いのは事実である。ただ待機児童解消に保育所を増やすことにひっかかっている。市川市で子ども子育て会議でニーズ調査をしたところ、両親ともフルタイムの方は69%が現在認可保育園に通っていると答えていて、4%の方が幼稚園、そして6%の方は幼稚園プラス5時までの預かり保育で合わせて10%くらいの方が幼稚園に行っている。そして今後どういう場所の保育を希望するかと聞いたら、両親ともフルタイムの方で、幼稚園を希望する人が12%、幼稚園プラス5時までの預かりが9%、あわせて21%くらいの方が、幼稚園を希望するとの結果であった。

アンケートの中でいろいろ見てくると、子育てしているお父さん、お母さんは、仕事をしているから今保育園しか預けられない。幼稚園だと2時に帰ってくるから、それじゃ仕事ができない、でも本音としては幼稚園に行かせたい、という方が結構多いことが分かつ

た。多様化している今のライフスタイルの中で、待機児童解消イコール保育園としてしまうと少し問題がある。そこで、私はやっぱり地域の支え合いも含めて、すごく多様な形の預け方が必要なのではないか、ということをご提案したい。

もう一つ言いたいのは、子育てが苦しくて苦しくて、しょうがなく、子供をどこかで見てほしい。だから、私は仕事を探すんだって逆のタイプもいると思う。その子育てのストレスをどこかで解消できたら、預けずにご家庭で過ごせるかもしれない。そういうところを考えてみると、やっぱり地域だとか、市民だとか、民間のいろんなタイプの預け先があるっていうのが、現在の待機児童解消に繋がっていくと考える。横浜市の例もそうだが、待機児童がゼロになったら皆が集まってくる。

また、幼稚園に預けたい、保育園に預けたい比率のデータがあるが、市川駅とか八幡駅周辺に住んでいる方は、保育園のニーズが多い。そして、ちょっと離れたところに行くと、幼稚園のニーズが多い。そういうのをみるとやはり駅から近いところに住んでいる方は、もう働くことが念頭にあって、保育園だが、そういう方々は家を買ったんだら、私の憶測だが、もうちょっと土地の安い習志野にしよう、松戸にしようとなってきて、定住する率が低くなっていくのではないかと思います。

その辺りを見越して、子育て支援イコール保育園としてしまうことにちょっと、私的には違和感があるし、なんとなく世間一般がそう思っていることに違和感を感じる。むしろ地域力を高めるため、是非、協働の条例を強く推したいと思う。

#### ○栗林会長

協働の条例はよく分かるが、子育て支援策とどうリンクするのかということをお聞きしたい。また、協働が待機児童の解消ではないとするとすごく分かりやすい、シンプルな言葉で、幸前委員としてはこれをやってほしいとすると、どういう言葉になるか。

それでは、田平委員どうぞ。

#### ○田平委員

夢を語るという時に、なんかきついことばかり言って申し訳ないが、今、財政が逼迫しているからこの市政戦略会議が始まっている。したがって、我々はなんか夢を語ってこうやりたいというときに、行政がもっと支出することが条件になるようなことは言うべきではない。むしろ、行政よ、もっと身軽になれ。そこのところは我々が引き受けるからと言って、行政が経常収支比率なんかをどんどん下げて、そして財政力を強化するからいろんなことができる。だから私は、夢はいろいろ語っていいが、その大前提として下部構造を固めなければいい上部構造はできないと言いたい。タイトルとして言えば、行革先進都市市川の実現を目指してとか、小さくて賢くて小回りの効く行政府作りとか、地域間競争優位構築の為にとか、新しい公共が支える地方自治先進都市市川とか、なんかそういったものを考えている。

#### ○栗林会長

建議は2本柱であって、来月やる行財政改革で、当然予算を効率化して資金を捻出して赤字を減らし、その資金で魅力ある街づくりに投入するということになる。だから、田平委員の発言のとおり、もうお金がないので今の予算に上乘せというのは有り得ない。だから、魅力あるところに当然お金がかかるが、どうその資金を捻出していくか、そういった議論である。

平田委員、先ほどの都市計画整備のお話はたいへん興味深い。外環ができるわけだが、市川市としてどうしたらいいのか。

#### ○平田委員

国が工事をやるので、市川市が何もしなくても、経済的な損失は削減されると思う。市

川市のインターから市内に、こういった形で経済効果をもたらすような仕組みを作るかといったことが重要である。たとえば市川市に来て、観光資源を見てもらい、お金を落としてもらおうとか。あるいは伝統とか、文化とか、いいところを理解してもらおうとか、そういったことが考えられると思う。そして市川市のファンになってもらうということである。そういう努力が必要になる。

この市川市における今後の行政サービスについてということで、自治体の方と、いろいろ話をすると、今まで自治体、特に千葉県がやってきたのは、戦後一貫して東京のベッドタウンで人口が増加してきて、それに対応するために行政サービスも増大、拡大の一途を辿ってきており、今もまだ、人口増加時代の行政サービスのあり方になっているといえると思う。これについて、今議論しているのは、人口が減少して高齢化が進行していくことに向けて、行政サービスの在り方そのものを大胆に見直して、縮小スリム化していこうと、行政の運営そのものの在り方を大きく転換する時期に来ていると思う。市川市も市民に明確に分かるような形で、大きく方向転換をすることが求められていると思う。

#### ○栗林会長

外環の開通は、たいへん大きな問題であり、だから、そこになんとか相乗効果、波及効果的に、市川市も積極的に乗っかって、魅力あるまちづくりにするために、是非皆さんにもアイデアを出してほしい。

#### ○青山委員

現在、市川市塩浜協議会の事務局次長も務めており、まさしく平田委員の数字どおりである。湾岸道路と外環がアクセスするだけでも、すごいポテンシャルである。常磐道、東北道にはすぐに行けるという利便性の向上から、塩浜地区にある楽天もアマゾンも増床しようとしている。工業専用地域はそのような状況である。またその隣の駅前には、既に12ヘクタールの賑わいの街をつくらうと、市と地権者4者が区画整理の認可を取得しようとする段階である。ただ認可を取得するには、「魅力ある」の中身についても県に理由を提出しなければならない。その内容は私が先ほど話をした「クールジャパンイン市川」である。成田と羽田の中間地点であり、更に東京都に隣接しているので、流通だけではなく、人の国際交流の拠点にもなりうるポテンシャルを持っている。湾岸市川インターをおりて、そこにバスターミナルの拠点をつくり、観光立国の素材を見せる計画もある。それだけではなく、塩浜には三番瀬という東京湾最奥の干潟、東京湾唯一の天然の干潟がある。そこまでに、約1時間以内であれば首都圏で約3,000万人の方が交通手段を使ってこれと言われている。さらに、半径10km以内なら500万人と言われている。自然に触れ合える環境があって、市川塩浜駅から8分で海に行けるというポテンシャルもある。環境教育というのは、我々がビデオを見せたり、言葉で伝えたりすることだけではなく、子供たちを海に自由に放てば、水と空気と土を同時に感じられるし、貝殻で足を切ったりもするなど、畏敬の念を感じ取る汽水域で培うものと思う。ものすごく子供たちにとっては良い教育の場になる。私の三番瀬活動である「クリーンアップ」というのは、ゴミ拾いだけではなく、教育の一環として、継続的に行ってきたつもりである。このようなキャンパスがオープンしようとしている。そこをどう活かすかということなどについて、これからの市川の賑わいのまち塩浜をどうするかという議論をしているところである。

#### ○栗林会長

資料1の目次か、もしくは先ほどのイメージ図のところの項目を見ていただきたいが、「子育て支援」は、当然提言に入る。それで、具体的な内容として、待機児童の問題をどう扱うかということと、あと幸前委員には、是非もう一つの方をお願いしたい。



○幸前委員

先ほど田平委員の発言のように、保育園1園建てるのに、すごくお金がかかる一方で、片や定員割れしそうな幼稚園という施設がある。どこかからお金を捻出するんだったら、今の公立の保育園を民営化し浮いたお金を認定こども園に補助金などの形で出せば、市川市は独自の取り組みとしてモデル的な施策になるし、今ある建物を有効利用できるという提案になると思った。

○栗林会長

それについて再度文書で出していただきたい。目次の1から8まで皆さんでご議論頂いたが、今日言わなかったが、こういう項目を是非立てたいということがあれば、またメール等でも募集する。今日この場で思いついたもので、他に何かあるか。田平委員、どうぞ。

○田平委員

結局、子育てとか、健康福祉とか、ICTとか、基本的にはまちの魅力を高めたいものである。まちの魅力が高いということは、人が移り住みたくなるわけである。そしてその市民は、そこから他へ移り住みたくない、ということになると思う。だから、移り住みたくなくて、出たくない、そういう「魅力があると人口が増える」のようなものはどうか。そうすれば結局、納税額も増える。今すぐには短文にできないんだけど、移り住みたくなくなるとか、市民に選ばれるまち市川とか、そういう感じはどうか。

○杉浦委員

たとえば、反対に、「10年後の市川市はこうなっている」というのを具体的に示してはどうか。こんな形の市川市になっていると。きちんと、これらのご提案が実際に実行された後に、こういう市川市になっているという観点から、最終的には目標を示してみるとかはどうか。

○田平委員

10年後を想像するのは大変である。こうありたいと思うのは人それぞれだが、こういう改革は大いなる抵抗と混乱と荒波の中でやっていかなければならない。それは絵に描いた餅にならないか。

○青山委員

要は、なぜ浦安に住みたいかっていうことだと思う。なぜ浦安に住みたいかという、ディズニーランドがあるからとか、そういったことだと思う。

○田平委員

今は必ずしもそうではないのではないか。あの地震から。

○青山委員

地震は起こってしまった自然災害なので、それ以前の話でという意味である。浦安には、いわゆる集客スキームがある。

○田平委員

集客スキームがあって、経常収支比率が70%くらいで、市民サービスが十分にできたから、人口がどんどん増えた、ということなんだと思う。でも今、地震以降、大変である。あの液状化対策で、ずいぶんブランド価値が落ちてしまった。

○栗林会長

今日の8項目の中で、「若年層の支援策」については、杉浦委員だけの発言であるが、再度、一番言いたいことを凝縮して言ってほしい。

○杉浦委員

要するに若年層の参画である。何かを与えるのではなく、参画してもらおうということである。コストを払っても参画だし、高齢者の福祉に対する参画もあるし、街づくりに対する参画とか、行財政改革における参画っていう形もあると思う。要は、若者層が直接意見を言える場を設けるということで、この中で一番お金がかからない提案だと思う。例えば、この会議をやるときに、委員の1割は若者を入れてしまうという形である。どういうふう代表を選ぶかというのはいろいろな方法があると思うが、でも実際、例えば今回のご提案の中にある子育てなどについても、その段階までいっていない年代の若者が多くいるので、そのような人たちも意見を言える場を設けていくことが重要であると思う。

○栗林会長

若年層というのは、年齢としてはどのあたりを想定しているのか。

○杉浦委員

私の場合は、大体15歳から30代前半くらいまでをイメージしている。

○栗林会長

15歳から35歳くらいまでの人を、行政主催のいろんな事業に積極的に参画できる仕組みを作るといふことか。

○杉浦委員

もっと意見を言える場を設けるということである。この審議会も、実際顔ぶれを見てみると、若い人がいないという状態になっている。

○栗林会長

例えばね、次期審議会でも25歳くらいの若い人を市民枠で入れるとか、そういうイメージでよいか。今の提案は、若者の政治離れということもあるから、いいことではないか。

○杉浦委員

大矢野委員のご提案にあった、ICTを使って、直接意見を述べる場を設けるというのも一つの方法だと思う。その場合は、全体的な年齢のバランスでやってしまうと、参画率が非常に低くなってしまいますので、少しまあ大目にみるということにすればどうか。

○田平委員

昨日、商工会議所の青年部の総会があり、青年部の上限は46歳までである、商工会議所の副会頭78歳と、私は66歳だが、私たちも青年部に入る資格があると言った(笑)。肉体年齢は66歳、78歳だが、心は青年である(笑)。サミュエル＝ウルマンの詩に『青春とは人生のある期間ではなく、心の持ち方をいう』があるが、要は今の20歳くらいの若者たちは、もっと一生懸命に働いて一流になることが大切だと思う。

○杉浦委員

しかし、「市川市では働きたくない」となってしまうかもしれない。市川市で働くことが、自分の将来に繋がっていくと思ってもらうためには、「市川市にはこのようであってほしい」という意見を言える場がもっといるのではないか。

○新田委員

千葉県佐倉市でミニさくらという取り組みをやっていて、子どもたちが自分たちで具体的になにかをやる、というドイツのミニミュンヘンを真似ているのだが、ミニさくらがすごく好評を得て、今キッザニアっていう遊び体験をする施設が、彼らは民間力ですごく儲けている。ミニさくらにそこまで先見の明があれば、キッザニアに儲けさせるのではなくてミニさくらが儲けられたかもしれない。私が何を言いたいかというと、若者っていうのは参画の機会がすごく必要だし、マルチステイクホルダーというか、いろんな年代の人、いろんな立場の人がそれぞれの立場でどう関わられるかっていうことをちゃんと議論する場が必要なのに、そこが分断されてしまっているの、そういう場があった方が私はいいと思う。それぞれの立場や年代があった方がいいと思うので、「若者」というところだけを取り出すというよりも、様々な方がいろんな審議会に入っていったりするということの方がもしかしたら重要と思っている。

○栗林会長

幸前委員、どうぞ。

○幸前委員

ミニさくらについてだが、ミニいちかわも十年来やっている。

カテゴリーの分け方についてであるが、子育て、健康、街作り、若年、協働と分けているが、参画とすると、協働も子育ても全部、含まれてくると思う。何か角度を変えた項目、子供も高齢者も全部入るような項目が必要と思った。

○栗林会長

例えば若年層の支援策はもちろん必要だが、建議としてできれば具体的に示したいと思う。抽象的には皆良いと言うに決まっているので、突飛な意見ではあるが、例えば本市の審議会には、必ず何歳以下の人を1人入れるなどの具体的なものを入れたい。私が言いたいのは、杉浦委員の意見だけではなくて、今日、いい意見をたくさんいただいたので、それを各委員で今日の議論を踏まえて、もう少しデベロップしていただきたいというのが会長からのお願いである。

○田口副会長

魅力ある市川市とは、要は人を集めるということである。人を集めるためには、まずイメージ的にいいということが挙げられる。あとは、平常時も、非常時も、実際に住んでいいと。ただ、そこには、田平委員が言ったように、当然、お金がかかるので、お金がかからないようにするために協働、若者の参画が大事である。

あと、今度外環ができて、東西の交流が深まるということも出たが、それならば南の自然と北の自然も繋げるとか。それから北には確かアーセナルサッカークラブなど、魅力的なものも一緒に融合させるのもよい。要は、既存のものをどう融合するかが一つのキーワードであり、外環が一つのパイプ役になると考える。外環は国の事業だが、それによって魅力を高めるという発想は非常にいいと思う。

それから、当然、実質的に住みやすいと感じてもらうには、「子育て」が非常に重要だが、今、若い人たちはどちらかというと市川よりも向こうに住む傾向があると聞く。これは「地価が高い割には子育て施策が今一つだ」と思われていると思う。これについては改善すべきところと思う。

○栗林会長

はい、青山委員。

○青山委員

個性で魅力を感じ、個性があるから惹かれると僕は思う。市川市の個性は文化のまちと言うが、実は市川市は、北は北海道から南は沖縄まで日本全国の人たちが、住民票を持って市川市に移住してきている。最近、それだけではなくて、外国の方も多く集まってきている。これは大きなポテンシャルであり、ひとつの魅力である。今、ふるさと納税がはやっているが、もし、その人たちが1%支援事業を例にあげていうと、1%の税金を自分たちの出身地に出すというNPOがあつたら、結構おもしろい。そういうきっかけづくりや場づくりが、新しく来た人に市川市の魅力というものが意識づけられていくのではないかなと思う。魅力ある市川市ってタイトルにするとしたら、市川市の個性に集約することで絞れると思う。わくわくするタイトルを作るなら、マクロ的な表現で出さない限りは、結局は各論に戻ってしまうという印象がある。

○栗林会長

はい、木村委員どうぞ。

○木村委員

さっき、若者という話があつたが、逆に高齢者がどんどん増えている。高齢者が協働などをうまく整備して、やり甲斐や働き甲斐を、他に対してアピールできるようにすべきである。そういう仕掛け作りを市川市ができれば、そういった人をうまく使うこともできるし、高齢者が地域や子どものためなど、ずっと価値観をもって何かをやり続けることができる。

○栗林会長

高齢者支援策は文言はともかく、入れる方向で検討したい。これからまちを作っていく、日本を背負って立つ、そういった若年層の人たちにも参画の機会を与えて、今度は逆に高齢者社会ですから、高齢者の人にもまちづくりに関わってもらいたい。

今後のタイムスケジュールだが、来月は主として行財政改革についてだが、これはやるべきことは概ね出ている。だからそれを再確認し、是非やってほしいと強く言うものを決めていく。今日の意見は、広範囲でその殆どが誰が考えてもやるべきものだが、実施には予算もかかるし、そういった順位付けもあるので、内容を絞りたい。

幸前委員には待機児童解消以外の意見を欲しいし、平田委員にはですね、外環の市川独自の取り組みについてプランがあれば出して欲しい。そして、今日の議題の更なるデベロップと整理について、いろいろなご意見を寄せていただきたい。

最後に事務局の方で連絡事項等、お願いしたい。

○荒井行財政改革推進課長

第3回会議は、6月11日水曜日4時から八幡市民談話室5階の集会室4である。また次回の審議事項の行財政改革に関する件について、アンケートを実施させていただきたい。

○大平事務局職員

(アンケートの内容について説明する。)

○栗林会長

それでは、本日は終了する。お疲れさまでした。